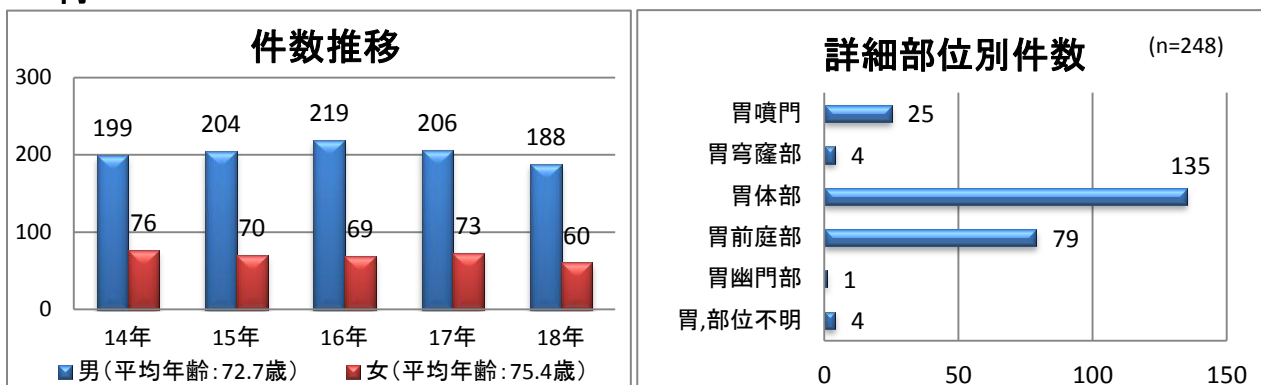
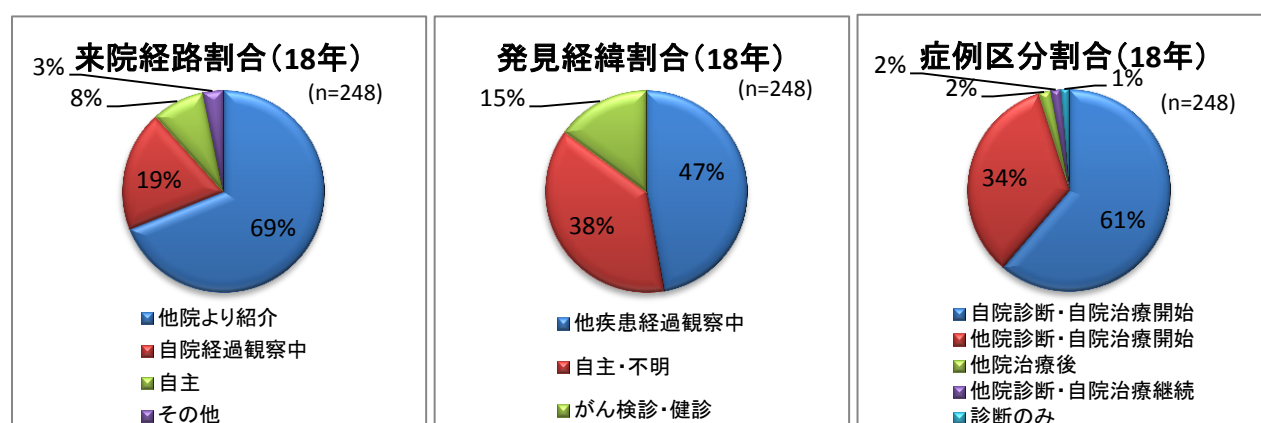


Ⅱ. 2018年集計＜部位別＞

2. 胃



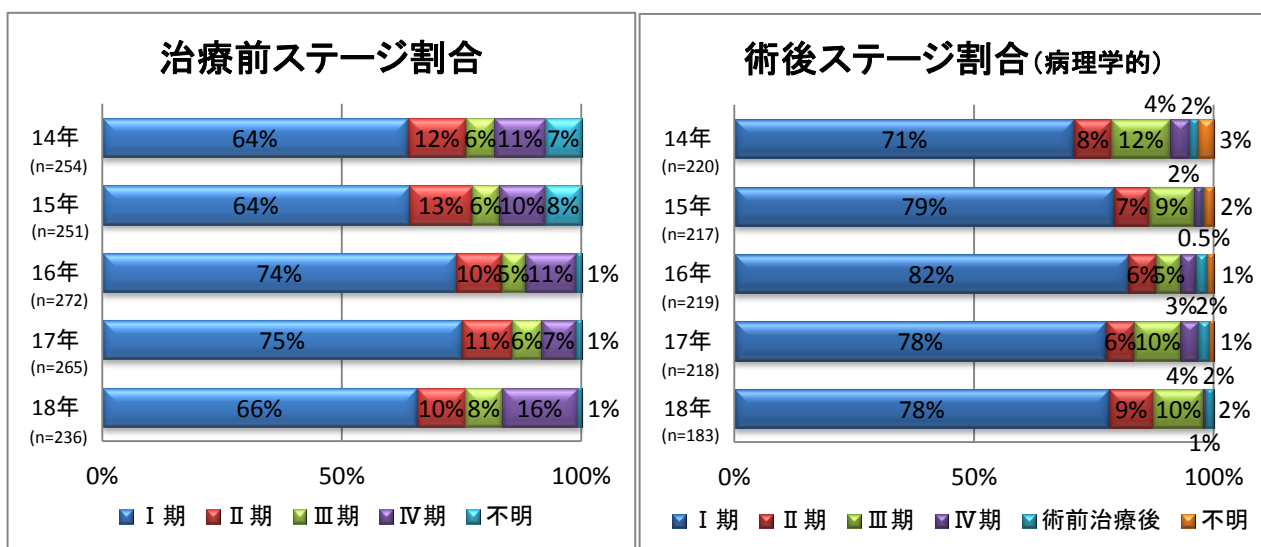
件数推移は男性・女性共に件数が減少している。詳細部位別では「胃体部」の件数が最も多い。



来院経路割合は「他院より紹介」の割合が約7割を占めている。

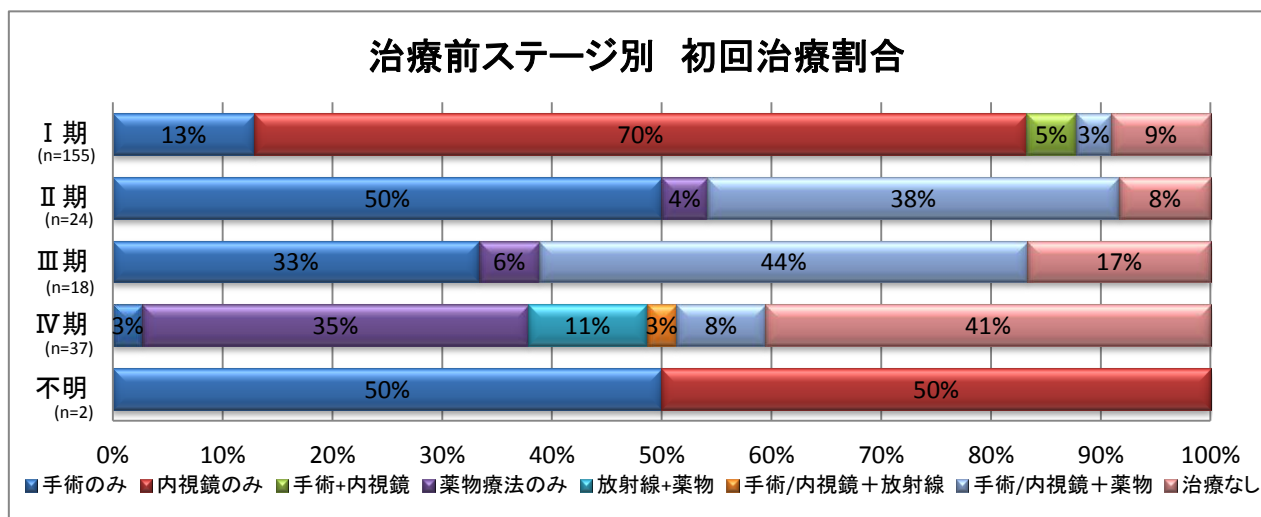
発見経緯割合は「他疾患経過観察中」の割合が約5割を占めている。

症例区分割合は「自院診断・自院治療開始」の割合が約6割を占めている。



治療前ステージは「I 期」の割合が約7割を占めている。これは16年よりがん登録のルールが変更となり、ステージの登録が可能となった症例が増加したためと考えられる。術後ステージも「I 期」の割合が約8割を占めている。

※「術前治療後」は、術前に化学療法や内分泌療法で病変を小さくしてから手術する症例が含まれる。



I 期では「内視鏡のみ」の治療が約9割を占めている。II 期は「手術のみ」、III 期は「手術/内視鏡+薬物」、IV 期は「薬物療法のみ」の治療の割合が多い。